

1. 会議の名称	君津市「まち・ひと・しごと創生」有識者会議
2. 会議の開催日時	令和2年2月19日（水） 午前10時から午前12時
3. 会議の開催場所	君津市役所 5階大会議室
4. 会議の議題	（1）千葉大学・市原市との共同研究「人口維持に向けた若者回帰戦略研究」の最終報告について （2）まちづくり意見公募手続きの実施結果について （3）新たな総合計画の策定方針（案）について
5. 公開又は非公開の別	公開
6. 傍聴できる者の定員	30名
7. 出席委員	内山雅博、小関常雄、齋藤佳子、倉阪秀史、横尾隆義、鶴巻郁夫、佐藤保明（齋藤茂雄代理）
8. 欠席委員	関谷昇、松井健太
9. 出席職員	市長 石井宏子 企画政策部長 安部吉司 企画政策部次長 鈴木広夫 企画課副課長 開田雅典 企画課係長 中村峰之 企画課主任主事 部田俊明
10. 傍聴人の数	3名
11. 発言の内容	別紙のとおり
12. 備考	倉阪秀史委員途中退席

【鈴木次長】

皆様にはご多用のところご出席いただき、誠にありがとうございます。定刻になりましたので、只今より、令和元年度第3回君津市「まち・ひと・しごと創生」有識者会議を開催いたします。本会議につきましては、「君津市会議等の公開に関する規則」に基づき公開としております。本日傍聴の方が3名いらっしゃいますので、その旨ご報告いたします。はじめに、市長よりご挨拶をお願いします。

【石井市長】

皆さん、おはようございます。市長の石井でございます。
令和元年度第三回君津市「まち・ひと・しごと創生」有識者会議の開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。本日は、公私ともに大変お忙しいところ、ご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。日頃から、委員の皆様には、市政各般にわたり、格別なるご支援、ご協力をいただいておりますことに、厚くお礼申し上げます。さて、本日は、千葉大学ならびに市原市との共同研究である人口維持に向けた若者回帰戦略研究について、倉阪教授より最終報告を行っていただくほか、パブリックコメントを踏まえた次期総合戦略の最終案、ならびに、これからの時代に適応したまちづくりの羅針盤となる新たな総合計画の策定方針案について、皆様からのご意見を頂戴したいと考えております。委員の皆様には忌憚のないご意見、ご助言をいただきますようお願い申し上げます。あいさつといたします。本日は、よろしく願いいたします。

【鈴木次長】

続きまして、会議の開催にあたり、欠席者の報告をさせていただきます。
本日、関谷委員、松井委員が都合により欠席でございます。また、齊藤茂雄委員の代理として佐藤保明様にご出席していただいております。
次に、お配りしました会議資料の確認をさせていただきます。

～資料確認～

不足はございませんでしょうか。続きまして、今回より新たに委員としてご参加いただいております、榎本光男 様、自己紹介をお願いいたします。

【榎本光男委員】

～榎本光男委員より自己紹介～

【鈴木次長】

ありがとうございました。それでは、議事に入らせていただきます。

本会議の設置要綱第5条第2項の規定により、小関委員が座長となりますので、議事進行をお願いいたします。

【小関常雄委員】

座長の小関でございます。改めましてよろしくをお願いいたします。

議事に入る前に、前回、延期しておりました、座長代理の指名ですが、榎本委員を指名させていただきますのでお願いします。

また、本日の会議録署名人でございますが、齋藤佳子委員を指名したいと思いますので、よろしく申し上げます。

それでは早速議事に入ります。

議事1「千葉大学・市原市との共同研究「人口維持に向けた若者回帰戦略研究」の最終報告について」倉阪委員からの説明を求めます。

【倉阪秀史委員】

～「人口維持に向けた若者回帰戦略研究」を資料に沿って説明～

【小関常雄委員】

ありがとうございました。示唆に富んだご提案をいただけたところですが、恐れ入りますが、私から一点確認させていただければと思います。交通の利便性は皆さん気にされている点でして、私どもからするとアクアラインを通ると近く利便性が高いと認識しておりますが、彼ら、多くの学生さんは電車や等で移動されますよね。こちらに来られた時市内の移動についてはさほど気にされな

いということでしょうか。市原市と君津市は市域が広域なのでその辺りで対応に苦労されてのではないかなと思います。

【倉阪秀史委員】

彼らは車で移動する考えはあまりないのかなと思います。特に千葉大生は電車移動で生活をしておりますので、車移動には慣れていないというところになりますですから、どこ住みたいという意見では車で移動しやすい所という意見が特に出ていないというところになります。ですので、車の移動が必要になる場所はマイナスになってくるのではないかなと考えられます。

【小関常雄委員】

対岸の方から人を呼ぶということに関しては利便性が良いとは言えるんじゃないかなと、その手については忘れてはならない点で良いのかなと思われます。今回の発表内容には、学生さんのアンケートをもとにテキストマイニングに起こして分かりやすいようにして頂いたので、その点についてご意見があればと思います。

【齋藤佳子委員】

日本政策金融公庫の齋藤でございます。この豊かさを測る時に、食料自給率を選ぶのはどういった観点からになるのでしょうか。豊かさイコール食料自給率になるというのが、あまりピンとこないというところでした、何か基準のようなものがあって選ばれたのでしょうか。

【倉阪秀史委員】

当然、たくさん稼いでたくさん消費ができる豊かさ、というのが普通の豊かさになります。田舎の方をクローズアップすると都会には負けてしまいますので、ストックの豊かさという形で、測る基準を変えないといけない。暮らしを支えるストックとして食料が足りていて、エネルギーは足りていて、住むところ医食住が足りているとなれば、万一の時にも食料はあるので、生きてはいけるという豊かさです。それは災害対応でも言えるところでした、都会だけに軸足を

置いていると万が一の時に行く場所もないとなるので、まずは二地点居住を図って、関係人口、週末市民として君津に軸を片足でもおいてもらいたい。その時に都会と同じ豊かさでなく、万が一の時ここに入れば暮らしていけるという考えです。

【齋藤佳子委員】

そうすると、これはアンケートを回答した当事者や、計画を考える関係者でなく、市民や都会の方に理解していただくためには、おそらく安全保障といったニュアンスで伝えた方がイメージしやすいのではないかなと話を聞いていて思いました。何かあった時に食べていける、何かあった時にも電気が通じるといったことですが、今の若い人の豊かさと言うと音楽が自由に聴けるとか、インターネットに自由にアクセスできるといったところに豊かさをイメージしてしまおうと思うんですが、先生のおっしゃる安全保障とカリスクヘッジという側面が伝われば、生活するうえでの安全だとイメージに繋がるのかと思います。

【倉阪秀史委員】

インターネットへの接続も必要ですので、当然 wi-fi 必須になりますね。

【小関常雄委員】

他にご意見等ございますか。

【横尾隆義委員】

マイナビの横尾です。貴重な資料をいただきましてありがとうございます。今この話を聞いて面白いなと思ったのが、排熱のところでした、こういった観点から考えたことがなかったので、すごい資源になるんだなっていう実感しました。今、話を聞いてこういった有効な資源があるんだなっていうところが一つ感想としてございます。それと里山としておっしゃる通りだと思おうんですけども地方創生を考える時に、里山をテーマに全国にしているところは、知っているとこだけでも50以上のところでやっていますので、ここに勝つためにもう一歩二歩を踏み込まないと、倉阪先生の提案が悪いとかそういうことではありません

けれども、やるからにはもうちょっと絞らないとぼやけるんじゃないかなと思われま。やってみただけ終わって見たら全国でもやっていたことだと、またそこで勝ち抜き競争しないといけないと、それならば最初から勝ち抜けることを考えていかないといけないのではないかなと資料読んでいて感じました。それは自治体の役目なのか市民の役目なのか企業の役目なのかわからないですけれども、内容や方向性が悪いとかではございませんが、しっかり作り上げてから進んでいかないとまずいのかなと不安を感じました。民間ですとこれで勝ち抜いていけるのか、1位2位になれるのか、特徴付けがないと全国あるいは東京から人を呼んで、関係人口を増やしたいのであれば、何かキャッチコピーが必要になるのではないかと印象を受けました。

【小関常雄委員】

私もこれをすればすぐに人口増加に繋がっていくという案は、今のところないんですが。

【横尾隆義委員】

私は案として思いつくのがいっぱいあるんですけど、例えばこの窓から見える景色の屋根を全部えんじ色に塗ればフランスに見えるとか、それで売ってる観光地いっぱいありますから、さっきからこの景色をずっと見てて思ってた、ここから見える屋根の色を全部統一するだけでもすごい観光地になるなど、ベッドタウンになるなど思うんです。まだ言いたいことは100個ぐらいあるんですけどもとりあえずこれぐらいにしときます。

【小関常雄委員】

他にご意見等ある方いらっしゃいますでしょうか

【内山雅博委員】

千葉銀行の内山でございます。結構ショックだったのが千葉大学生のアンケートの住みたいまちに自然が豊かというのが3%で住みたいというところには全く考えていないという状況で、君津の持っているポテンシャルの里山は何とか

しようというところで、だいぶ相反するところでなんとかこちらに興味を持ってもらわなくちゃならないかなというところがございます。その場合に小中学校の小さい頃の教育の中で里山を理解してもらうのか、あるいはインフラを整備する中で里山はこんなに楽しんだというの含めて準備されて、そこから意識を変えてもらうのか、その辺のところはこれだけこのアンケート見てしまうと全く住む考えないのかなと思ってしまうところですがその辺はどのように変えたらよろしいでしょうか。

【倉阪秀史委員】

全員にこっちに来てもらうのは難しいところで、興味を持って来てくれればというところは思うんですけども。先程、他の所との競争という話もありましたけれども、都会に近いっていうところと、もう一つはここで体験したことを他の所に行っていたらと、全国のハブ的な機能として君津から全国の里山に送り出すということで連携して、全国の里山の情報をお願いします。興味のある方に一旦君津に来てもらい、そこで里山での生活をしたいと思った人を全国に送り出すという形で協力し合うと、全国の里山のゲートウェイとしての位置づけを市原市と大多喜町とかと一緒にやって里山ゲートセンターみたいな作ってそれでPRしていけばそれなりの人は来るのかなと思っております。

【佐藤保明委員代理】

里山という言葉なんですけれども、我々は里山と言うと里山、奥山といったイメージで里山ってイメージするんですけども、このアンケートで里山っていうのは、私の住んでいる小糸では、全体が里山になってくるのではないかなと思うと、ここで言う里山はどこを指しているのか教えて頂ければと思います。

【倉阪秀史委員】

人の手が入って、人との関わりのある自然の地域、これが例えば環境省の里山構想というところになるんですけども、人の手が入って維持されている自然ってのが里山のイメージとなりますそれを引き継いだ形になっております。

【佐藤保明委員代理】

そうすると奥山でなく人里との中間の地域を里山とイメージすれば間違いはないってところですかね。

【倉阪秀史委員】

農業や林業など人の手が入って、そこから人がいろんなものを得て生活をしていて、その過程で森林なども維持されるといった所です。

【佐藤保明委員代理】

今は維持が難しく里山がなくなってきていて、サルやイノシシの有害鳥獣が増えて生きている状態になっているイメージだと思うんですが

【倉阪秀史委員】

担い手不足が加速していることで里山の劣化が進んでいる状態ですので、そこに人に来てもらって維持をできる環境を整えるという発想です。

【小関常雄委員】

その他にございますでしょうか。倉阪委員の研究発表内容ですけれども前回からございましたように、市民の方に君津市を正確に理解いただいて、変な形でなく危機感を持っていただいて、共に取り組んでいくというところも重要です。それと横尾委員から頂いた意見や倉阪委員からのハブ構想だとかも参考にして進めていけたらと思います。それと豊かさという表現について、誤解のされないようにを使っていく必要があるのかなと、私も思いました。

それでは皆さんよろしいでしょうか

【横尾隆義委員】

一点だけよろしいでしょうか。誤解があったらまずいかなと思いますので、他の地域に勝つというのが、この千葉で言うと君津は土地的には面白いところがありまして、片側に東京が近くにありまして近くの商業施設は木更津がありまして観光では鴨川もございます。そのちょうど真ん中に位置する君津は、この

場所のポテンシャルがとても高いのではないのかなと思ってます。のんびりしたところに行きたいなって時には鴨川、勝浦、いすみに行きまして、買い物したい時には木更津に行っております。距離感が良くて、一泊二日自然も楽しめて後は買い物できて多少の観光も出来る実はベストポジションにいるんじゃないかなって思ってまして。なんかそう考えたですねミニハワイに近いなと思ってまして、真面目に考えるとハワイの魅力ってのは買い物できて 自然があつて魅力がありまして先程勝ち抜く話をさせて頂いたんですけども、勝ち抜くというのは近くの地域を落とすといった考えではないっていうところを補足できたらなと思いました。

【小関常雄委員】

それでは議事1を終わりましたして議事2に入らせていただきます。事務局から説明をお願いします。

【中村係長】

～「まちづくり意見公募手続きの実施結果について」資料に沿って説明～

【小関常雄委員】

ありがとうございますそれでは今の説明を聞いて意見や質問がありましたらお願いします。

【齋藤佳子委員】

意見公募手続きの実施結果の4番ですが、この意見には二つの観点があるんじゃないかなと思ひまして、一つはイベントをやってほしいという意見とそれから公園を作ってほしいという意見になるんじゃないかなと思ひます。回答から逆算すると公園作ってほしいという要請に対してはCにされた方が良いのかなと思ひます。逆にお聞きしたかったのが君津市としてマラソン大会とかフェスとか、フェスは市がやるものではないかもしれませんが、大型イベントそのものがやれませんか、やりたくないとかではないのかなと思ひますと、大型イベントの開催というタイトルにしてCにすると君津市はそういう事をやる気が

ないんだなと取られてしまうんじゃないかなと、公園の増設など施設に関しては、今は施設の数を増やさず削減の方向で動いていらっしゃると思うので、方向性としてCにされるのはよろしいのかなと思います。一方でイベントはぜひやっていただきたいなと思っています。マラソンだとかせっかく里山がありますので、それを生かしたイベントを開催していただけたらなと思います。

【小関常雄委員】

台風で延期になってしまったんですけども君津ウルトラマラソンを5月に予定しておりまして、コロナウイルスでどうなるかわからないところですけど、それと自転車のイベントも近隣と連携して予定されてるようです。イベントの開催については、誤解されないようにしていただければと思います。その他ございますでしょうか。

【榎本光男委員】

1番目の空き家対策ですが、私は市と一緒にやってるんですが登録数が非常に少ないというのは、当初は回覧板を使って一度配った時には、空き家バンクに登録してくださいと募集を見た方から何人かの方にはいいねという意見をいただいたんですけども2度目がありませんね。やはり目にするというのはホームページだけでなく回覧板だとか自治会長を集めていらっしゃるのでも年4回はされた方がいいんじゃないかなと思います。意外と今そこに住んでいない人が気づかないといけないじゃないかなと思いますので、多くの人にPRしていかないといけないと思います。それからアクアライン鉄道についてはたくさんの方が希望されてるというのが聞いてますが難しいというのも聞いております。君津のバスターミナルをもう少し広くして君津に一回来たバスが成田でも新宿でもどこでも乗り換えることができるといいのかなと思います。それとグルメというのもあるんですけども、かぎさ醤油という醤油がありまして、焼きそばにとても合うインディアンソースがあって、今それを復活させようという取り組みをしています。それがうまくいけば焼きそば祭りでもできるのかなと楽しみにしていますが、後継者の方がいらっしゃいますの

で頑張っていたきたいと思っております。それから労働者不足のところですがこれから外国人をどんどん雇って使っていくことも必要なのかなど、外国人技能実習というのも設けて行けばというふうに思っております。これはなんとか商工会議所でできればというところで今は検討しているところです。

【小関常雄委員】

榎本委員から商工会議所としても協力して取り組んでいこうありがたいご提案ですので、連携して取り組んでいけたらより良いのではないかなと感じます。ほかにございますでしょうか

【鶴巻郁夫委員】

齋藤委員のおっしゃられたことに関連してですけれども、今新しいものを作っていこうという考えでないというところがおっしゃった通りだと思います。イベントも施設で大型のイベントでなくて小型のイベントの開催でもいいもので、山間部など都会にはないところを活用して市民と協働で行えばお金もかからないでしょうし、例えば里山といった人の手の入った場所であれば通る道もあるでしょうから、そこを通るだけでも喜ぶます。東京ではトンボが飛んでいないので、都会の子どもなんかはトンボを図鑑でしか見たことがないもので、そこへ行くとバツと飛んでいるのを見せると、それだけでも子どもは喜ぶでしょうから。そのようなことでもいいので、市民と協働してお金をかけずに市の方で取り組んで頂けたらと思います。どんなふうに行ったらいいかという、手前味噌になってしまいますが私どもが実施しているセミナーに職員を派遣していただいていますので、職員に知識が蓄えられているはずですから、どんどんやっていたらいいんじゃないかなと思います。それともう一点区分がDとなるところですけども防災のところはですね、他にもっとしっかりものを作るからということでDにされてるんだと思うんですけども何か意見を頂いた方にそれは関係ないやっけていってしまうとかわいそうな感じもするのでそれであればご意見はご意見として書いてあるんでBにして、もっとしっかり作るというところを表現した方が意見をいただいたかたにはいいのかなと思います。

【小関常雄委員】

鶴巻さんと同意見で 9 番と 10 番で地域防災で同じところになるので せっかく貴重な意見を頂いたので配慮していただきたいと思います

【横尾隆義委員】

榎本委員がおっしゃってた空き家ですけれども、いつも思ってることがあります。いかに手放させるかについて、強硬論になってしまいますが、空き家の固定資産税を上げてしまうなど、あるいは空き家環境整備税など他の新しい税金を作ってしまうと、規制があるとは思っているので簡単ではないでしょうけれど、県なのか市なのか別にしても本格的にやっていく必要も出てくるのかなとも思われます。また、この空き家問題は色々な自治体が困ってらっしゃるところで、成功している例としては不動産業者の方でなく自治体の方が直接伺って、空き家を手放すことについて社会的意義を説いていただくという方法もあります。ただの売買では、先祖代々大切にしてきた家だったりすると地域の目もあって、近所からあの家売ってしまうんだよって言われてしまったり、仏壇があるなどの理由もありますから、ハートのあるアプローチをしてケアしないと中々難しいんじゃないかなって思います。商売っ気のある人は地元の不動産業者に売ってしまうかと思うんですけれども、やっぱり問題になってしまっているのはそっちじゃないのかなというところ。自治体の方も大変苦勞されてますけれどもアプローチの方法を変えるなど、空き家をなんとか再生するような道筋を持っていく必要があるのかなと思ひまして、成功しているところはそういうところなのかなと思います。

【小関常雄委員】

農地とかも同様で市の職員の方が血の通った対応をしていただくようなことが必要になってくることもございますので、優秀な人材の揃ってる君津市さんにはしていただきたいなと思います。その他にございますか。

それでは議事 3 に移りたいと思います。新たな総合計画の策定方針（案）について事務局から説明をお願いします

【倉阪秀史委員】

今まで自治体でエネルギー政策はあまりやってこなかったんですが、国土強靱化という側面からも色々なものがその地域で得られる、ライフラインが確保できていることも重要でして、地方創生にも繋がると考えております。会議の途中で申し訳ございませんが、都合により退席させていただきます。

～都合により倉阪委員途中退席～

【中村係長】

～「新たな総合計画の策定方針（案）について」資料に沿って説明～

【小関常雄委員】

ありがとうございました。質問等ございましたらお願いいたします。

【横尾隆義委員】

今聞かせていただきましたが、自分で今すごく重要だなと思ってるのが、税収をどうするかということで、市民の意見を実現するには当然あれやってこれやってということで支出ばかりになってくると思いますけれども、市長の立場からすると大変かなと思うんですけれども、最近強く思っている事が産業力アップでして、君津も廃業してしまった方だとか後継者の問題でやめざるを得なくなってしまう方とか農業にもいらっしゃると思うんですけれども、色々な自治体が今一生懸命やっている若者のスタートアップ支援があったと思うんですけれども、個人的には、その若者のスタートアップ支援を否定はしませんが、その当たる確率と今苦しんで、もがいてらっしゃる企業や農家をなんとか再生して、税収を上げていく確率どちらが高いかと言うと、今苦しんでらっしゃる事業者さんを助けて、あるいはチャレンジャーを外から持ってきて後継者を連れてきてあるいは資金投入していった方が個人的には効果があるんじゃないかなと思ってます。表向きには、若者の起業を頑張るのを支援した方がブランディング的にはいいかもしれませんが、実態はそれよりも先にそっちじゃないかなと思います。そのために金融機関の方も会議に参加していらっしゃるのかなと思うんですけれども、そちらに施策がいかないケースが自治体には多いの

かなと思ってまして、特に注目してるのがマイナビという性格上、銀行を中心とした早期退職というのがいろんな企業で行われてまして、この方たちはそこそこな知見があって、実は早期退職で退職金も多くもらってまして、ましては都内でいいところに住んでいて、そこで売ってしまえば自分で使える資金っていうのがいっぱいあるところでした、若手ばかりじゃなくてこういった事業だとか商工会で頑張っている方だとか、早期退職で出てくる方はある程度お金を持っていますからそういったところをマッチングするようなことも非常に大切なんじゃないかなと最近すごく考えてます。それと、最近思っているのが千葉県なんか特にそうなんですけども高校が全部県立に頼ってしまっていて若手が出て行ってしまう時に、だいたい小学校ぐらいまでは君津市はどうだとか地元教育をするんですけども、中学校ぐらいから薄くなっていて高校になると全くやらないと、理由としては県立だからかなと思ってまして、お金とか様々な問題がありますけど、県立を市立化するだとか、そこで地元教育をきちっとやられて、それで1回東京へチャレンジしに行ってもいいけど、いつか戻ってきてねというのがすごく重要なんじゃないかなと、いわゆる地元愛の醸成というのがないまま東京ばかり見ている、テレビの影響やインターネットの影響を受けて、東京に行ってしまうと正直思います。それからいろんな地方を回っていると、正直知らないような企業でも大きく元気な企業があって、その企業の最大の特徴は東京のマーケットを見ていなくて、世界しか見てないと東京なんかどうでもいいんだよと、やっぱりそういう企業がいらっしゃる自治体は強いなと改めて思いまして、若干西日本に寄っているんですけど、どうしても中国や韓国が近い関係がありまして、北海道なんかは農業中心で日本のマーケットは見えないというところがありまして、どちらかというところと国際化で千葉港が日本で2番目の港ですからそういったところも含めてやられたらいいかなと思ってます。それと今日、君津駅からここまで来たんですけども残念な状況が続いていて、ただすごくチャンスだなとも思っていて、駅前がこれだけ寂しい状況というのは再開発のチャンスだとすごい思っていました、地権者の関係で実際は大変だと思うんですけども。これが本当にチャンスだという意識を持たれてですね、地権者交渉であったり駅前再開発であったり、その時には駅とバスターミナル周辺含めて駐車場戦略っていうのが一番大

事だと思っまして、これ以上鉄道が伸びることは難しいかなと思っますので、車とのアクセスポイントが重要になりまして、そうなると駐車場が必要になってくると思っます。行政が駐車場をやるっていうのはメリットがあると思っまして、民間ですと固定資産税がかかってしまうところで、早い段階でアクセスポイントである駐車場を行政で押さえるというのが重要になってくるのではないかなと思っしております。それと、抽象的な話になってしまいますけれども若者が東京になぜ行くのかとか逆になぜ地方へ行くケースがあるのか、両方とも実は深く考えてなくて、ライフスタイルだと思っして、自分のライフスタイルがそこでどう実現できるか、分かりやすく言うとサーフィンが好きだから一宮に行くだとか、ライフスタイルの提案について君津でどういうことができるのかっていうのが、重要なことだと思っしています。それと話の中で東京を一括りにしてしまうんですけども、東京の最大の魅力って実際山手線の駅の単位でガラッと違う多様性、渋谷と新宿も違いますし原宿も違いますし二十三区とも全く違うというところになると。個人的には君津は世田谷区のイメージがありまして、通勤も楽、自然もある、高い建物はない、でも文化度が高い、文化度について前回も音楽の話しをさせていただきましたが、文化度を高めるのは非常に有益なことかなと考えております。それと、すごく大切にチャンスだと思っしているのが医療の充実でして、医療の充実と言うとお年寄りの側の医療の充実というイメージをしてしまいますが、人口増加あるいは人口流入を考えると、出産時あるいは産後ケアこそが重要じゃないかなと思っます。特に女性のライフスタイルが変わる時って子どもが出来る時だと思っして、今まで遊んできたけど、子どもができる子どものためにいいもの食べさせようだとか添加物のないものだとか近くに公園がある所に住みたいなったり、このイメージっていうのは大切だと思っして、世田谷っていうのが上手いなと思っして、日本で初めて産後ケア施設を公立で作ったのが世田谷でして、自然とブランディングができたわけではなくて、行政もやり方がうまいと思っしています。それに、オークラ病院という子ども専用病院もありますし、子育て支援を考えると保育園、保育園問題がすぐ上がってきますけれども、ライフスタイルの思考が変わる時期は出産時期じゃないのかなと感じています。以上です。

【小関常雄委員】

ありがとうございました。いろんなご意見いただいたと思いますので参考にさせていただけたらと思います。人口的に今後は公務員を選ぶ割合っていうのが増えていく時代の流れになると、制度も変わって行くこともあるでしょうし、営利目的の事業展開っていうのも長い将来では考えていく必要があるのかなという風に思います。総合計画の策定方針についてご意見等ございますでしょうか。

【内山雅博委員】

総合計画の中では人口減少を和らげるというところだと思います。その中に2030年までに転出超過を0と掲げておりますけれども。結論的に申し上げますと企業の誘致など目先の部分も含めたところに力を入れていただきたいと思っております。君津市に支店を構えて営業している事業者からしても危機感を持っておりまして、それに加えて倉阪委員のアンケートを見ても、職場の近くに住みたいというのが第一位とありましたけれども、また転出入のアンケートを見ても仕事の都合という方がほとんど50%に近いということで、そうすると仕事があれば君津に住むという考えの人が多いのかなという気がしております。その中で君津は、工業団地もなくなかなか仕事の的にも、袖ヶ浦市は袖ヶ浦工業団地を持っていたり、木更津は開発が進む中で、今後、金田東辺りも金田西もコストコが出来たりあるいは木更津ゲートウェイということで5万平米以上のところを開発してくれるところで医療関係含め商業施設ができるということで、雇用が生まれるということだと思っておりますけれども、君津に関してはそういったところがなかなかないというところで、これはインターチェンジのところの動きもありますけれども、企業を誘致することも考えていただきたいなと思っております。先ほど横尾委員からも君津駅前のお話がありましたけれども、北側に市や県の所有している土地があると聞いたことがありましたが、君津駅の乗降客は1日で1万6千人もいらっしゃるって、袖ヶ浦駅は1万人もいらっしゃらないそうなので、君津駅を利用する方がこれだけいるということになると駅前の再開発ができて立派なビルが建ってそこで従業員が雇われるということにな

ると人口が増えていくことになりまして、目先のことになってはしまいますが、企業を誘致して雇用を創出するということが必要になるんじゃないかなと思っております。

【小関常雄委員】

ありがとうございました。人口減少防ぐのにアンケート結果からしても働く場所ってというのは必須だろうということですので新しく企業誘致することについても考えていきたいと思っておりますし、横尾委員から話のあった、廃業者とのマッチングというところも、それから地元について中高生と先生方には親御さんからよくご理解いただけるような取り組みも検討していければと思います。他にご意見ございませんようですので、終了といたします。以上をもちまして、本日全ての議事を終了いたしました。皆様ご協力ありがとうございました。進行を事務局に返します。

【鈴木次長】

進行ありがとうございました。

以上をもちまして、令和元年度第3回君津市「まち・ひと・しごと創生」有識者会議を閉会といたしますが、本日は委員の皆さまより貴重なご意見を多々いただきました。総合戦略につきましては、最終案ということで示させていただきましたので、今後はいただいたご意見を参考に進めて参りたいと思っております。また、新たな総合計画の策定方針も示させていただきましたので、担当から申しあげました通り総合戦略との一体化を考えておりますので、この有識者会議の中で色々のご意見賜りたいと考えております。本日も総合計画の策定にあたってご意見いただいておりますので、今後2年間かけて総合計画を作り上げていく予定としておりますので、本日いただいた意見を参考にさせていただきながら、良い計画の策定に努めてまいります。それでは本日はご多用の中、ご参集いただき誠にありがとうございました。会議を終了とさせていただきます。